

平成 28 年熊本地震シンポジウム

開催日:平成 28 年 10 月 26 日(水)

場所:熊本市国際交流会館 6F ホール (熊本市中央区花畑町4番1)

主催:東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会

共催:熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会研究教育センター

平成 28 年熊本地震は甚大な災害を引き起こしました。震源域には日奈久断層と布田川断層が知られ、長期評価や予測震度推定が行われていました。震度7が2回観測され、広域的に地震活動が活発化するなど、災害対策や活動推移予測で検討すべき課題も浮き彫りになっています。今回の災害の特徴や、過去の地震災害、長期評価、事前即時予測、地殻活動、復旧復興、災害情報など幅の広い情報交換や議論を行い、地震災害の軽減に向けた研究の展望について検討を行います。また、最新の研究成果を社会にお知らせすることで、将来の地震災害の軽減に向けた社会環境の醸成を目指します。

第1部 研究報告(研究者・研究機関向け) 09:45-12:30

第2部 研究・活動報告(一般・行政向け) 13:30-16:45

第一部は研究者向け内容ですが、一般の方も参加できます。

開場:09:30

第1部:研究報告(研究者・研究機関向け)(09:45-12:30)

09:45-09:50 はじめに

清水洋(九州大学理学研究院)

1. 九州中部の歴史地震(コンビーナ:黒石裕樹)

09:50-10:05 前近代における九州中部の地震

鳥津亮二(八代市立博物館未来の森ミュージアム)

10:05-10:20 公文書にみる 1889 年熊本地震

中村元(新潟大学人文社会・教育科学系)

2. 長期評価・強震動予測・被害予測・即時予測(コンビーナ:関口春子)

10:20-10:35 布田川・日奈久断層帯の長期評価

佐竹健治(東京大学地震研究所)

10:35-10:50 布田川・日奈久断層帯の地震動予測と被害予測

佐伯琢磨(防災科学技術研究所)

10:50-11:05 熊本地震震源断層の GNSS による即時推定

川元智司(国土地理院)

11:05-11:20 熊本地震による斜面崩壊

千木良雅弘(京都大学防災研究所)

11:20-11:30 休憩

3. 地殻活動(コンビーナ:高橋浩晃)

- 11:30-11:45 九州中部の地殻変動とテクトニクス
中尾茂(鹿児島大学理工学研究領域)
- 11:45-12:00 九州の地殻構造と地震活動
相澤広記(九州大学理学研究院)
- 12:00-12:15 熊本地震の火山への影響評価
藤田英輔(防災科学技術研究所)
- 12:15-12:30 総合討論(コンビーナ:研究戦略室長 谷岡勇市郎)

12:30-13:30 昼休み

第2部:研究・活動報告(一般・行政向け)(13:30-16:45)

司会:兵庫県立大学環境人間学部准教授

地震・火山噴火予知研究協議会災害部会長 木村玲欧

- 13:30-13:35 はじめに
平原和郎(地震・火山噴火予知研究協議会議長, 京都大学大学院理学研究科教授)
- 13:35-13:55 熊本地震が引き起こされた背景
清水洋(九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センターセンター長・教授)
- 13:55-14:15 熊本地震発災後の観測活動～臨時観測から知る余震活動
松本聡(九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター准教授)
- 14:15-14:35 熊本地震による地表の変状
鳥井真之(熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践研究教育センター特任准教授)
- 14:35-14:55 火山研究センターの被害と活動～地域資源としての研究施設の役割～
大倉敬宏(京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター教授)
- 14:55-15:05 休憩
- 15:05-15:25 熊本地震後の被災史料レスキュー活動について
稲葉継陽(熊本大学文学部教授, 熊本史料救出ネットワーク)
- 15:25-15:45 ライフラインの早期復旧を目指して
(未定)NTT 西日本熊本支店
- 15:45-16:05 災害報道への取り組み～地域のよりよい災害対応の実現を目指して～
小野由紀子(熊本日日新聞熊本総局次長)
- 16:05-16:25 被災者生活再建への取り組み～熊本県生活再建支援システムの実現～
田村圭子(新潟大学危機管理本部危機管理室教授)
- 16:25-16:40 総合討論(木村玲欧)
- 16:40-16:45 おわりに
谷岡勇市郎(地震・火山噴火予知研究協議会研究戦略室長 北海道大学教授)
- 16:45 終了